

# ICTは生徒の未来を活かす あたりまえの道具になる

— 学校法人 荒井学園 高岡向陵高等学校

## 目的

- 生徒一人ひとりに合った単元復習ができる学習環境の提供
- 社会でも即戦力となりうる実践的なスキルを身に付ける
- 大雪などの時節的な休校でも「学びを止めない」対応

## アプローチ

- 契約機種を統一して一括導入することで、「使ってあたりまえ」をより実現しやすく
- 授業でさまざまなアプリを適切に活用するため、MDMで一括管理
- 生徒の学びを止めないため、LTE対応タブレットを選択

## ICTを“あたりまえ”に活用できる環境づくりをめざす

学校法人荒井学園が運営される富山県高岡市の私立高岡向陵高等学校では、2020年度以降に入学した生徒を対象に「一人1台」の環境が整いました。積極的な活用をすすめ、1日の終わりに生徒一人ひとりのレベルに沿った弱点を学び直すオリジナルプログラム「Reスタ（リスタ）」をタブレットで行うなど、生徒の学びを第一に考えた取組みを行っています。

### LTEは通信環境の安定性といつでもどこでも学べる利便性が大きなメリット



2020年度から一人1台の本格導入がはじまった高岡向陵高等学校は、早期からICT活用の必要性を見据え、2012年から共用のタブレットを導入、順次台数を増やし、2クラス分60台を活用してきました。また、2018年からは教職員が一人1台のタブレット活用をはじめました。段階的に導入してきたことで、生徒への一人1台の配備を決めた際も各教職員から理解を得られ、スムーズに導入を進めることができました。

一人1台の端末として選んだのは、LTEタブレットのレンタルモデルです。同校で情報管理部長を務める藤川武命教諭は、「新規にWi-Fi環境を整備しなおしましたが、ドコモのLTEタブレットを導入することで通信を二重化でき、授業中に通信が途切れない環境を得ることができました。生徒の多くはスマートフォンを使っており、今や“どこでも通信できる”という環境があたりまえに求められています。また、Wi-Fi環境のない家庭、校外学習や電車の待ち時間などにも活用できることが決め手でした。加えて、レンタルであればタブレットを破損してしまった場合の手配もスムーズであるというあしん感もありました」と話します。

さらに、レンタルモデルで機種をそろえたことによって、MDMで一元的に管理できる点も、学校で管理する端末として大きなメリットだったといえます。



藤川武命教諭



学校法人 荒井学園  
高岡向陵高等学校

〒933-8538 富山県高岡市石瀬281-1

URL: <https://takaokakoryo-h.ed.jp/>

富山県高岡市にある私立高岡向陵高等学校は、道徳教育と能力・個性の伸長を両輪に掲げ、2017年度から「未来デザインコース」と「未来探究コース」の2つを設置。難関大学等への進学実績をもつ一方で、部活動も活発です。地域連携、ICT教育の推進、個別最適化された学び直しによる学力向上を大きな柱とし、主体的に学ぶ多様な生徒の育成を担っています。



[取材協力] 学校法人 荒井学園  
高岡向陵高等学校



# ICTを「使わなければ」ではなく「使ってあたりまえ」に

同校にとって、ICTとは「使わなければいけないもの」ではなく、「**使ってあたりまえの道具**」をめざしています。

「ICTは、これからの時代は絶対必要となってくるツールですので、もはや『いる／いない』などといった場合ではありません。やらなければならないのであれば、**早めに取り組み、教職員が互いに話し合っ**て進めていくことで、**個々のスキルアップや自信にもつながっていくでしょう**」と話すのは、同校の今井亜矢子校長です。また「**全教科で絶対使わなければいけない**というわけではなく、授業の中でピンポイントとして効果的に使う形もよいと思います」と柔軟な姿勢で臨む。「**タブレットが生徒間のトラブルの原因にならないよう、情報モラルなども盛り込み慎重に進めています**」と、ICT活用の工夫を語りました。



## 学校独自の取組みで楽しく主体的／効果的に学ぶ

高岡向陵高等学校独自の取組みのひとつが、学校設定科目の「プログラミングに親しむ」です。普通コースにあたる「**未来デザインコース**」では、さまざまなソフトを使って、**楽しみながらプログラミングを学んでいます**。

また、火曜日から木曜日の6限後には、15分間の学び直しのオリジナルプログラム「**Reスタ**」に全校生徒が取り組みます。以前は教員が採点し、レベルに応じた教室わけをしていました。成果は上がっていたのですが、**大変な労力がかかっていた**。一人1台タブレットを導入することで、**AI分析による個別最適化学習システムを活用できるようになり、省力化しながら、これまで以上に細やかな学び直しの時間を提供できるようになりました**。

## オンライン授業のノウハウを災害時や土曜授業に活かす

### 社会に出たときに応用できるスキルを習得

授業で最も活用しているのは、授業支援アプリの「**ロイロノート・スクール**」です。授業中に紙を配付・回収するよりも**頻繁に生徒の理解度や意見を確認できるようになり、生徒の発表も容易になりました**。ノートやワークは記入分だけを写真提出するので、生徒は自宅での学習が進みます。また、職員室からは**山積みのノート類が少なくなりました**。

「**社会や企業でも利用が進むアプリ・ソフトなど、場面に合わせてさまざまなツール**を利用しています。これらのスキルやマナーを身につけさせ、**生徒が社会に出たときに工夫・応用できるように努めています**。一人1台のタブレットがあることが、道具としてのICTの活用を進めるために一番必要なことだと考えています」(藤川教諭)。



### 天候による突然の休校でも臨機応変の対応が可能に



同校のある富山県では、冬季には降雪のためやむを得ず休校になる場合もあります。休校時のオンライン授業のノウハウは、**教室の授業を臨機応変にオンラインで実施することが可能になりました**。「**土曜授業をオンラインにするなど、さまざまな事情で登校できない生徒へのサポートに活用できないか検討を進めています**。

2020年度の長期的な休校期間中に全教職員がオンライン授業を体験し、**一通りのことができるようになりました**。各教職員がICTの便利さを実感したことで、**いろいろなことにICTを使おうという興味・関心が湧いてきます**。今年度からICT活用のプロジェクトチームを校内に発足したので、さらにさまざまなアイデアや使い方が広がっていくことを期待しています」(今井校長)。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)  
受付時間：平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

法人のお客さま ドコモビジネス  
Smart World for Education

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)

docomo  
business

